

主体的に

生き抜く力を育む

キャリア教育

「キャリア教育」は、「社会的・職業的自立」のための教育である。

しかし、学校現場からは、キャリア教育の重要性には共感しながらも、実践においてはさまざまな難しさを感じている声が聞こえる。

今号では、改めてキャリア教育の価値を確認しながら、

生徒が主体的に生き抜く力を身に付けるための実践の方向性を考える。

学校現場の声「キャリア教育実践の難しさ」

◎「総合的な学習の時間」でキャリア教育を実践したいが、担任の先生方は受験へ向かうための指導を好む傾向がある。
(宮城県)

◎進路学習は「どのような人として社会に貢献したいか、10、15年後に自分らしく生きていられるか」を考えるものだとガイダンスなどで伝えているが、生徒が系統立てて考えられるシステムがない。
(富山県)

◎「職業インタビュー」として、1年生の生徒が市内の公共機関や企業に出向き、インタビューを実施した。社会に触れる機会だったが、全員強制参加だったため、効果が薄くなってしまった。
(静岡県)

◎就職希望の生徒を中心にインターンシップを推進しているが、企業側との調整も含めて、そのための環境整備がかなり困難である。
(兵庫県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2013年10月にウェブとファクスで実施。有効回答数は、60。

本号のテーマ

主体的に生き抜く力を育むキャリア教育を、
どのように実践していくか？

現状整理

キャリア教育 その10年間の変遷、そして展望

対談【P.6～9】

和歌山県立桐蔭中学・高校校長
宮下和己



ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室室長
木村治生

学校事例

先進校のキャリア教育 成果とこれから

卒業生と振り返る【P.10～19】



「生徒に『なぜ?』を問い掛ける中で、さまざまな変容を見いだしながら、
未来をどう生きるかを考えさせる」

宮城県仙台向山高校

「生徒を信じ、焦らず気付きを待つ中で、
生徒と教師が共に成長する」

栃木県・私立文星芸術大学附属高校 英進科



課題解決への提案

自校のキャリア教育を熟議し、「教育の本質」に迫る

座談会【P.20～25】



東京大
大学総合教育
研究センター
准教授
中原 淳



茨城県立
日立北高校
進路指導部
副部長
長山祐司



埼玉県立
大宮光陵高校
校長
久保島昌一



三重県立
特別支援学校
西日野にし学園
校長
鈴木達哉

視野を広げる

小・中・高校の12年間を通じて教育課題を考え、語り合う
「Teachers' cafe」第1回ワークショップ報告

特別レポート【P.26～27】